

高瀬は中世以降、湊や宝成就寺といった寺院を中心に発展してきました。江戸時代になると、熊本藩の五か町（熊本・八代・川尻・高橋・高瀬）に数えられ、さらに繁栄していきます。中世期の保田木城跡に町奉行所が置かれ、南側の永徳寺には藩営の米蔵と、藩主の休憩所（御茶屋）も造営されました。高瀬の玄関口は、三池往還の出入口でもある高瀬目鏡橋であり、裏川の樋門の役目として秋丸眼鏡橋も架橋されています。中心部は町家が建ち並び、裏川には各店へと物資が運べるように石橋も整備され、今に残る景観が形成されていきました。これまでの確認調査で、江戸時代の建物跡や陶磁器が出土しており、当時の繁栄ぶりを物語っています。

肥後五か町“高瀬”の 繁栄の軌跡を探る



現在の高瀬の町並み

高瀬に残る江戸時代の風景



秋丸眼鏡橋（下流へ移設）

江戸時代の裏川を復元した模型（博物館ころもピア蔵）

旧町家（談議所）

旧猿渡家（NPO 高瀬蔵）

小崎橋

酢屋橋

現在の裏川と石橋群

天秤を担いで
渡れる工夫が！

土戸橋

高瀬目鏡橋

裏川で毎年開催される“花しょうぶまつり”

発掘された江戸時代の高瀬

これまでの調査事例から、中世期の生活面は3～4m下とされ、以降、洪水の度に嵩上げされ、砂層と粘土層が交互に堆積しているようです。また、江戸時代後期～幕末期の建物跡礎石や土間（三和土）が検出され、陶磁器が出土しています。高瀬の町家は、“うなぎの寝床”といわれ表は店で、その後ろが生活空間、そして中庭を挟んで蔵が裏川沿いに並んでいました。

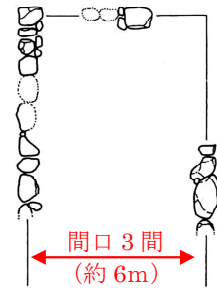
隣家と壁を共有！

表通り 店 生活空間 中庭 土蔵

高瀬の町家を復元した模型（博物館こころピア）

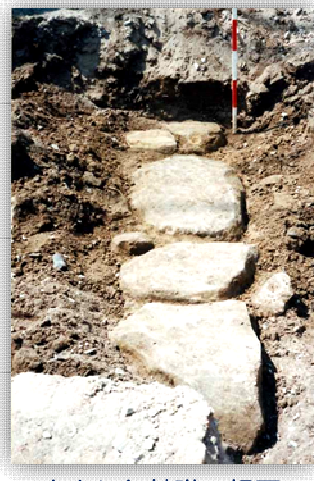


検出された土間（三和土）



建物基礎出土状況

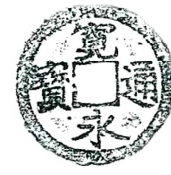
高瀬の町家で最も多い建物基準！



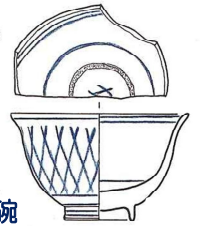
出土した基礎の根石



表通りの復元模型



出土した古銭と磁器碗



高瀬出土の磁器



香炉

植木鉢

小代焼の御間屋があったかも？

南関・瀬上窯産の小代焼



はんとかめ 半胴甕



県内唯一！

菊池川採集の VOC 銘皿



肥前産の磁器



弓野窯産の鉢



高瀬出土の陶器・ガラス

高瀬出土の陶磁器は1610年代以降から増え始め、人口増加に伴い18世紀前半頃は多量に流通。波佐見・嬉野・唐津・小鹿田・二川・高田焼などがみられます。文書から1848年は約2600人が高瀬に居住していたとされます。

高瀬における西南戦争の痕跡

明治10年に起きた西南戦争では、永徳寺の高瀬御蔵周辺から出火して北側へ延焼しました。数か所の確認調査において焼土層が認められ、焼けた瓦などが出土しています。また、この出土位置は、当時の被災記録の範囲とも一致しており、高瀬の1/3に相当する188戸が焼失しました。下町が中心で北西側の寺院群は焼け残ったため、その後、官軍の病院として利用されることになります。



高瀬で確認された西南戦争時の焼土層



●焼土層が確認された地点

記録にある罹災範囲

火元となった高瀬御蔵跡